

大雪への備え

北海道で大雪となるのは、大きく分けて二つのパターンがあります。

一つ目は、日本海側を中心に大雪をもたらす「冬型の気圧配置」です。「冬型の気圧配置」とは、大陸に高気圧、日本の東の海上から千島列島・オホーツク海方面に発達した低気圧がある気圧配置で、天気予報などでよく聞く「西高東低の気圧配置」と呼ばれるものです。冬型の気圧配置の時の天気図をみると、日本付近の等圧線は縦縞（たてじま）模様となっています。大陸の高気圧は、冷たく乾いた空気を持ち、ここから日本の東の低気圧に向かって北西の季節風が吹き出します。この冷たい季節風が比較的温かい日本海を渡るときに、海面から大量の水蒸気が補給され雪雲が発達します。この雪雲が次々に北海道へ流入し、日本海側を中心に雪を降らせます。冬型の気圧配置が強まると日本海側を中心に大雪となるだけでなく、雪雲が山を越えて道東でも大雪が降ることがあります。冬型の気圧配置の場合、上空約 5,000 メートル付近の気温が氷点下 36℃以下が大雪の目安となります。天気予報で、「北海道の上空に氷点下 36℃以下の強い寒気が流れ込む」というようなフレーズを聞いた場合は、大雪に注意してください。

二つ目のパターンは、北海道付近を通過する低気圧によるものです。中でも、低気圧が本州の南岸から三陸沖を発達しながら進む「南岸低気圧」によるものは、太平洋側やオホーツク海側で大雪になることがあります。「南岸低気圧」による雪は、水分をたくさん含んだ湿った重い雪になりますので、重みで樹木が折れたり、電線が切れて停電することもあります。普段は雪の少ない道東でも大雪となることがあり、交通機関にも大きな影響が出る場合があります。

雪による災害のおそれがあるときに発表する注意報には、大雪注意報、なだれ注意報、着雪注意報、風雪注意報などがあります。さらに、重大な災害のおそれがあるときには、大雪警報や暴風雪警報が発表されます。気象庁では、毎日 5 時、11 時、17 時の天気予報に加え、気象庁ホームページの「大雪・暴風雪に関する最新の防災気象情報」では最新の雪の状況から今後の見通しなど幅広い情報を提供しています。雪に関する気象情報を確認し、大雪による災害や事故の防止に役立てましょう。

問い合わせ先 網走地方気象台

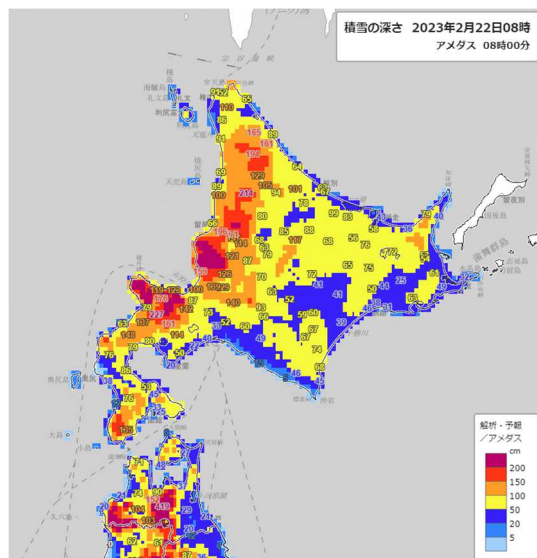
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



「大雪・暴風雪に関する最新の防災気象情報」は
こちらから



気象庁ホームページ「今後の雪」より